

シェアメディカル、日本初の「遠隔看取り」サービスを開始

移動時間をなくし、医師の負担軽減と患者の尊厳ある最期を両立する終末期医療DXソリューション

株式会社シェアメディカル（本社：東京都千代田区、代表取締役CEO：峯啓真）は、同社のデジタル聴診デバイス「ネクステート」とオンライン診療機能付き医療用チャットサービス「メディラインワークプレイス」を組み合わせた日本初の「遠隔看取り」サービスを開始することを発表いたします。

ネクステートとメディラインを用いた遠隔看取りのイメージ



【防災の日に寄せて：災害時にも途切れない医療を】

本日9月1日は防災の日です。大規模災害時、道路寸断や医療機関の機能停止により、死亡確認のための医師派遣が困難になるケースが想定されます。本サービスは医療用チャットサービスとして平時運用を実現しつつ、医師の移動時間をゼロにすることで、医師の負担軽減に資するだけでなく、災害時の医療継続性確保という観点でも、社会インフラとしての意義を持ちます。

【背景：深刻化する地域医療の課題】

現在、日本の医療現場では以下の深刻な課題が顕在化しています：

■ 医療過疎地域の拡大

離島や中山間地域では医師不足が深刻化しており、無医地区は増加の一途をたどっています。通常、医師は介護施設の看護師や訪問看護師から連絡を受け、昼夜を問わず死亡確認のため現地向かう必要があります。特に医師が常駐していない離島などではご遺体を本島に移送するか、医師の到着を待たねばなりません。

■ 医師の高齢化と働き方改革の課題

地方診療所の医師も高齢化が進んでおり、夜間や早朝の呼び出しに対応することが困難と感じる医師が増加しています。医師の働き方改革が推進される中、オンコールによる負担軽減が急務となっています。

医師不足・高齢化への対応

- 無医地区：全国で約700地区（約1.5万人）
- 医師の高齢化：地方診療所医師の平均年齢63.2歳
- 2040年問題：医療・福祉分野96万人の人材不足予測

■ 死亡3徴候確認における聴診の必要性

医師が死亡と宣告するためには、心臓の停止、呼吸の停止、そして瞳孔の散大（脳機能の消失）という「死亡3徴候」の確認が求められ、医師のみが死亡宣告を行えます。特に在宅の場合、病院のようにモニター機器を取り付けることは稀なので、一般的には心音と呼吸音の停止確認には聴診器を用いた聴診が不可欠ですが、これまで遠隔での実施は技術的に困難でした。[\[13\]](#)[\[14\]](#)[\[15\]](#)

【革新的な遠隔看取りシステムの仕組み】

シェアメディカルが開発した「遠隔看取り」サービスは、以下のフローで実施されます：

1. **事前の画像共有**：現地の看護師が瞳孔の散大や他所見などの状況をタブレットで撮影し、医療用チャットサービス「メディライン」上で医師に事前送信
2. **オンライン接続**：内蔵されたオンライン診療ツールを起動し、医師とリアルタイムで接続
3. **遠隔聴診の実施**：看護師がデジタル聴診デバイス「ネクステート」を自身に当てて正常に稼働していることを確認。次に患者に当て、遠隔地にいる医師が心音・呼吸音の停止をリアルタイムで確認

4. **死亡宣告と事務手続き**：ご家族に対して医師による死亡宣告後、死亡診断書は死因や時刻など医師の指示により代筆され、看護師からご遺族へ手渡し

【日本初の取り組みとその意義】

実は、遠隔看取りはオンライン診療より早く法制化されており、技術的には既に解禁されていました。しかし、これまで医療機器メーカーや医療ベンチャーでこの分野に着目し、実用的なソリューションを提供する企業はほとんど存在しませんでした。シェアメディカルが今回発表する「遠隔看取り」サービスは、日本初の本格的な遠隔看取りソリューションとなります。

【終末期医療DXの推進：テクノロジーが果たす役割】

政府が推進する「医療DX令和ビジョン2030」では、デジタル技術を活用した医療の質向上と効率化が重要な柱として位置づけられています。特に終末期医療の領域では：

■ 人材不足への対応

2040年には医療・福祉分野で96万人の人材不足が予測される中、DX技術による労働力の有効活用が不可欠です。

■ 地域格差の解消

テクノロジーを活用することで、地理的制約を超えた質の高い医療提供が可能になります。

■ 患者・家族の尊厳ある最期の実現

遠隔技術により、慣れ親しんだ環境での看取りを実現し、患者様とご家族の希望に沿った終末期ケアを提供できます。

【今後の展開】

シェアメディカルは、本サービスを通じて以下の社会課題解決に貢献してまいります：

- 医療過疎地域における医療アクセス向上
- 医師の働き方改革推進
- 高齢化社会における尊厳ある看取りの実現
- 災害時を含む緊急時医療体制の強化

本サービスの導入により、患者様、ご家族、医療従事者すべてにとってより良い終末期医療の実現を目指してまいります。

【会社概要】

会社名：株式会社シェアメディカル

代表取締役CEO：峯啓真

設立：2014年9月1日

資本金：6860万円（資本準備金含む）

所在地：東京都千代田区大手町1-6-1 SPACES大手町ビル

事業内容：デジタル聴診デバイス「ネクステート」の開発・製造・販売、医療用チャットサービス「メディライン」の提供

URL：<https://www.sharemedical.jp/>

本件に関するお問い合わせ

株式会社シェアメディカル 広報担当

Email：pr@sharemedical.jp

TEL：050-3612-8255